

トコロジストと気候変動



2017年10月

(公財)日本野鳥の会 箱田敦只

イラスト 片岡海里

そもそも日本は災害多発国

地震や津波だけではない

- 国土の7割が山地・丘陵地である。
- 国土の1割の沖積平野に、人口の1/2が集中。
- 山岳が急峻、川が急峻。
- 断層や地滑り地帯がいたるところに分布
- モンスーン気候による大量の降雨

トコロジストで災害を理解しよう

● 気候変動の緩和策と適応策

緩和策＝炭酸ガスの発生を抑えること

適応策＝気候変動に備えること

● 身近に起こりうる災害リスク

集中豪雨、土砂崩れ、洪水、気温上昇による疫病の発生、熱中症患者の増加、外来種の侵入、農作物への被害…

● 災害を理解すること＝土地を理解すること

「災害を理解すること」は、「その土地を理解すること」。トコロジストになることが、災害を理解することにつながる。

トコロジストとは、場所の専門家

トコロジスト

- ≡ 所(トコロ) + ジスト(IST)
- ≡ 場所の専門家
- ≡ 自分のフィールドに
くわしい人
- ≠ 鳥や虫、歴史の専門家



トコロジスト 3つのポイント

1 具体的な場所から学ぶ(場所性)

2 複数の視点を重ねて見る(学際性)

3 アマチュアという立場(市民性)

5

1 具体的な場所から学ぶ(場所性)

◆こんな感覚に心当たりありませんか?

「今、ここに住んでいる実感がない。」

「いずれ自分はこの土地から出ていく。」

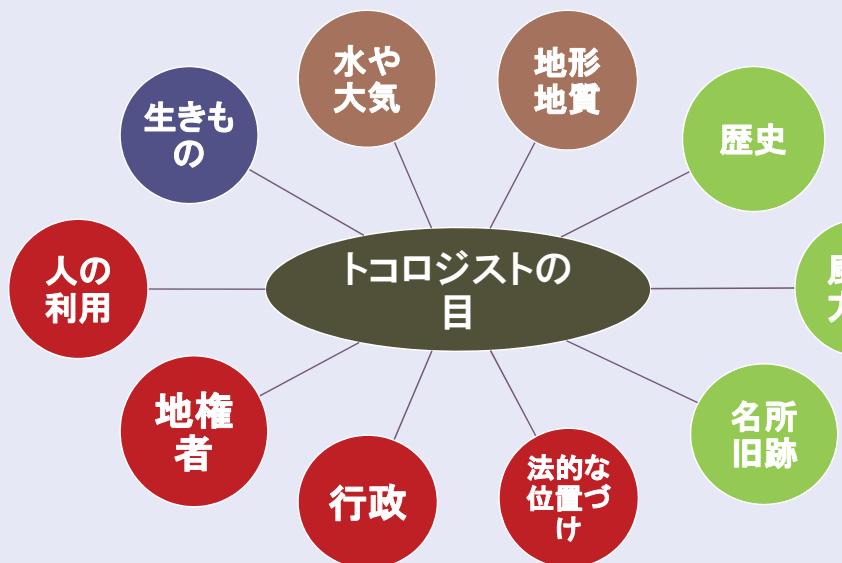
「季節の移り変わりに関心がない。」

「ご近所との会話がない。」

「環境が悪くなったら他に行けばいいや…。」



2 複数の視点を重ねて見る(学際性)



トコロジストと分野の専門家

	鳥の専門家	虫の専門家	植物の専門家	水の専門家	土の専門家	社会の専門家
トコロジストA1	■	■	■	■	■	■
トコロジストA2	■	■	■	■	■	■
トコロジストB1	■	■	■	■	■	■
トコロジストB2	■	■	■	■	■	■
トコロジストB3	■	■	■	■	■	■
トコロジストC1	■	■	■	■	■	■

6

8

3 アマチュアイズム(市民性)

◆学問分野の専門家

鳥類学、昆虫学、動物学、植物学、地質学、生物化学、地理学、社会学、文化人類学、歴史学、法律学、行政学、経済学……。

◆場所の専門家

自分が通っている場所のことなら何でも知っている人。その場所の地形的な成り立ち、土地利用、人々の暮らし、植生、動植物の暮らしなど、複数の分野を横串で通してみることができる。

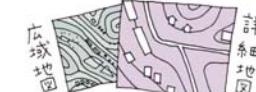
トコロジストになるには…

トコロジストになろう



step1 フィールド 所場所を決めよう

step2 地図を見よう



step3 歩いてみよう



step4 記録しよう



step5 記録を管理しよう 発信しよう

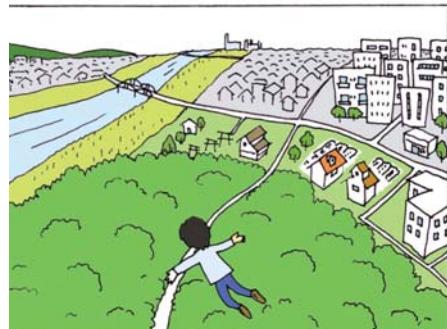


地図を活用しよう

■歩く目線



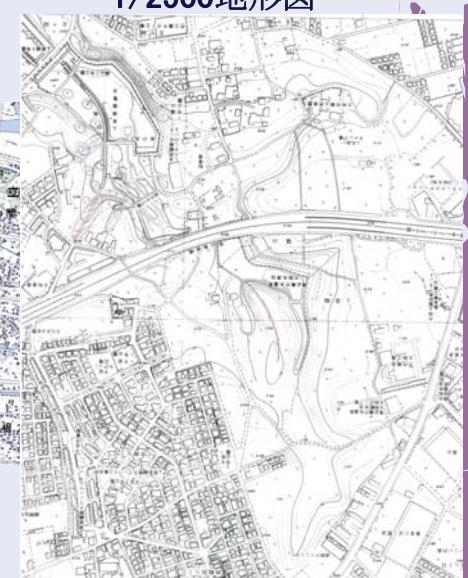
■地図の目線



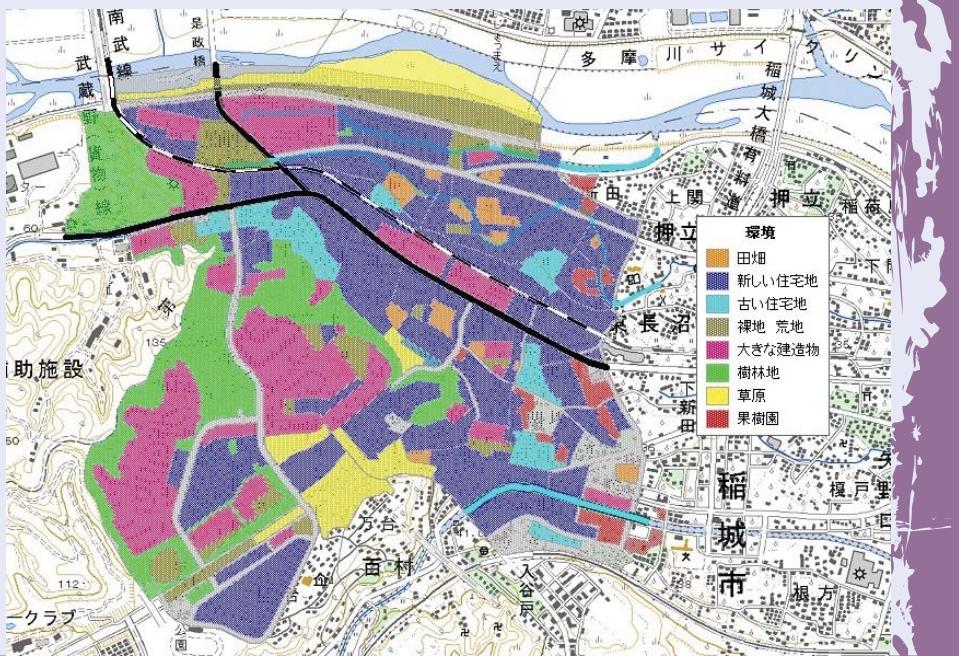
地形図を使おう

1/2500地形図

1/25000地形図



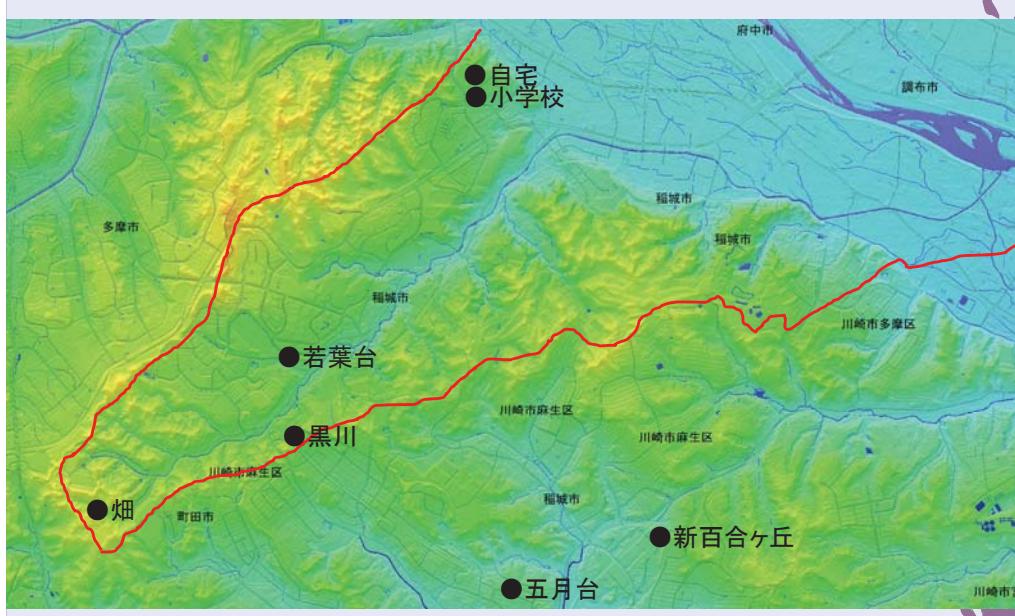
土地利用図を作ってみる



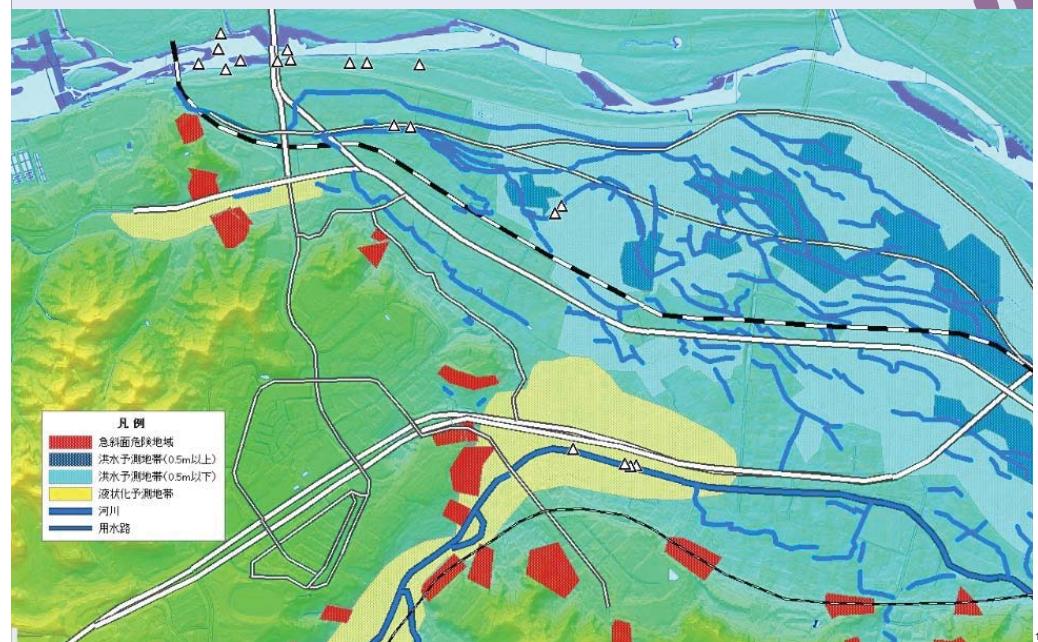
古地図で時間を飛び越える



自分が立っている地形を意識する



ハザードマップを見ながら歩く



見たことを記録する

■記録をつける

日時、場所、天候を忘れずに！

<日時> 2011年1月30日
<時間> 10時30分 <天候>
<場所> 佐山橋

何が、どうした
を簡潔に！

→ 3月1日 5:45
トランギエの木と
おもへいじ

1月30日

→ 実に何かみつけた?
ほんとうに?
あつた,
どうがいかれた?

野外での記録用紙の例
(ルーズリーフ)



フィールド情報カード

【タイトル】 野菜の路地販売

【日付】 2015年5月28日

【場所】 舞岡ふるさと村 竜子谷 【記録者】



民家の庭先では、その日採れた野菜の路地販売が行われている。といつても、カゴに野菜と値段が表示されているだけ。購入者は、セルフでお金を入れて購入する。

17

地図に記録する



地図をフィールドノートにする。

日付と時間を忘れずに！



位置は地図上に番号で記録し、詳しい情報は、記録用紙に記録する。

記録のまとめ方

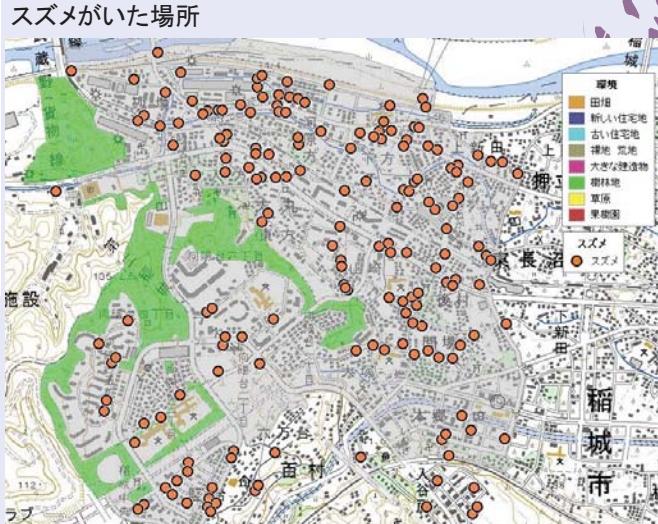
1)生きもののリスト(表)

植物 (本木リスト 2000-2013)	
種名	学名
アカマツ	マツタツキ
アシタバ	スミレ
アシタバ	カツラソウ
アシタバ	アマナ
アシタバ	キタ
アシタバ	アマナ
アシタバ	キタ
アシタバ	アマナ
アシタバ	キタ

2)生きものごよみ

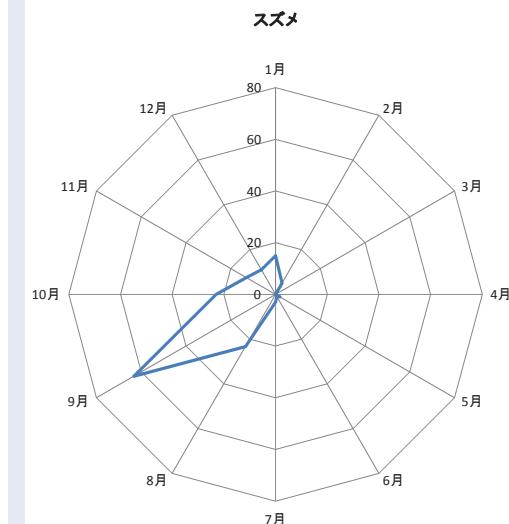
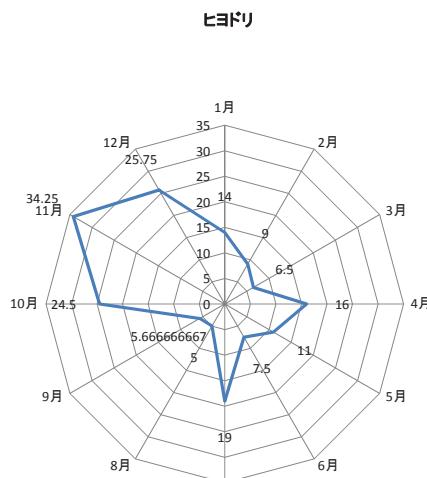
木の花ごよみ	
ウメ	1月
ハナミズキ	2月
スギ	3月
アシタバ	4月
コナラ	5月
カツラ	6月
ミヤマキ	7月
ミヤマキ	8月

3)生きもの地図



19

グラフで表す



20

発信しよう

冊子による発信



観察会による発信



ブログによる発信

プロフィール

セイダケの木に群がるヒヨドリ

2013年10月日 秋の紅葉の頃
娘と久しぶりに家の前の公園で「ドミンゴン」をしていたら、頭上で6羽のヒヨドリがセイダケの木に群がっていた。

けがましく鳴きながら、からかうと移動している。

「狂嘗する」という言葉がひつたな種でした。

驚き方が尋常でないものだから、ハドミンゴンを中断してしまったヒヨドリの様子を見ることにした。

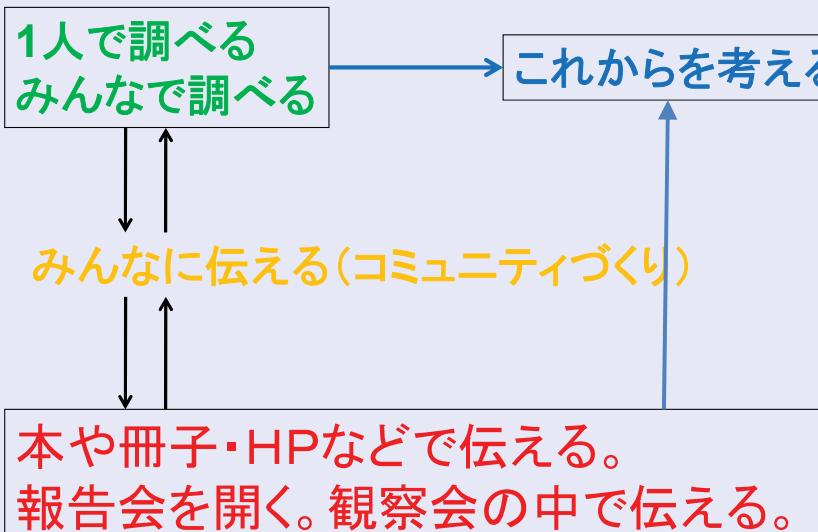
見ないと、この他のさらに四方八方からの木を目指してヒヨドリが集まってきたんだ。

21

地域の人たちにも聞いてもらう



調べる・伝える・これからを考える



気候変動による災害にそなえて

1) 生き物を通して気候変動をモニタリング

生き物の季節変動、分布の変化を通して気候変動の証拠をつかむ。

2) 土地の成り立ちを理解する

地形からその土地の成り立ちを理解し、災害のリスクを前もって知っておく。

3) 地域の中に顔見知りを増やす

いざというときに助け合えるコミュニティをつくる。